

ホームページ全面刷新、情報も充実

株主の皆様、お客様をはじめ、より多くの皆様当社をご理解いただけるように、ホームページを全面リニューアルし、また、私どもの技術が日々の生活の中でどのようにお役に立っているかご紹介する内容も充実いたしました。今後も情報の充実、タイムリーな更新に努めてまいりますのでぜひご覧下さい。



トップページ
<http://www.tok.co.jp/>



私たちの仕事



IR情報

事業報告書の名称変更について

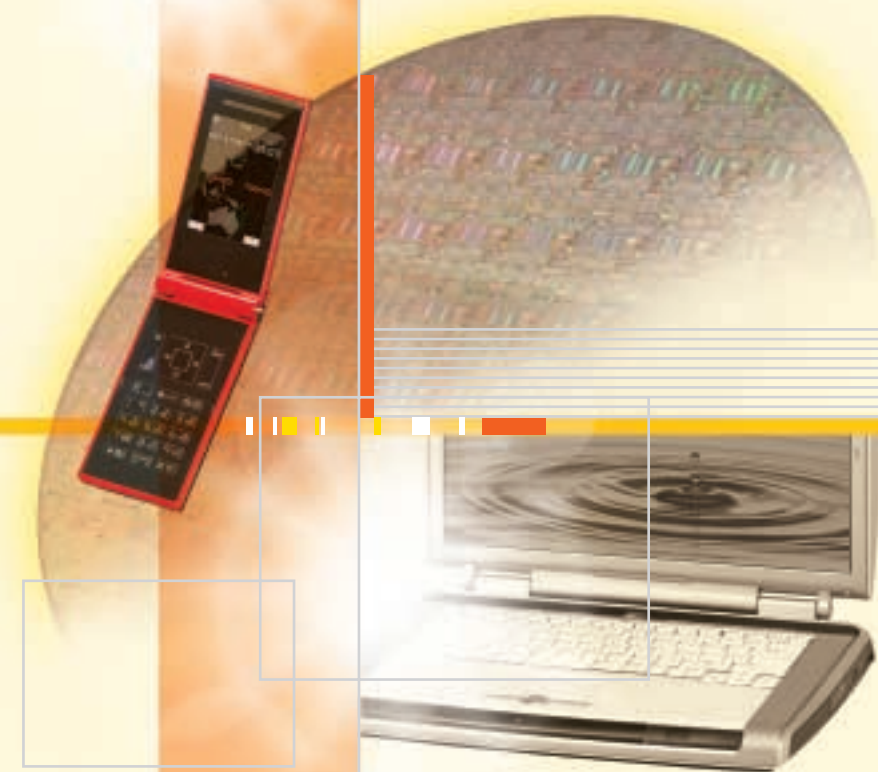
平成18年5月1日より会社法が施行され、従来の商法において作成が義務付けられておりました「営業報告書」が「事業報告」へと名称が変更されました。これに伴い当社では、従来「事業報告書」として事業の状況を株主の皆様にご報告しておりましたが、当期より「報告書」へと名称を変更いたしました。今後とも当社では、株主の皆様にとってより分かりやすい「報告書」の制作に努めてまいります。

tok 東京応化工業株式会社

〒211-0012 川崎市中原区中丸子150番地
電話 044-435-3000 (代表)



環境に配慮した「大豆油インキ」を使用しています。



第77期 報告書

平成18年4月1日～平成19年3月31日

The 77th Business Report

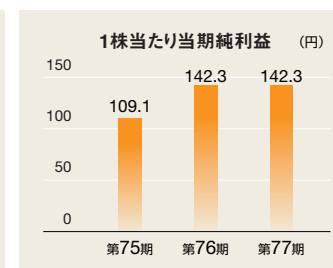
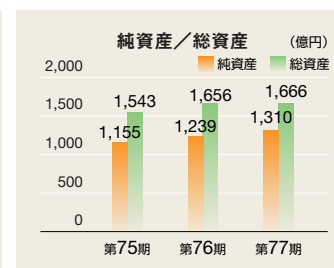
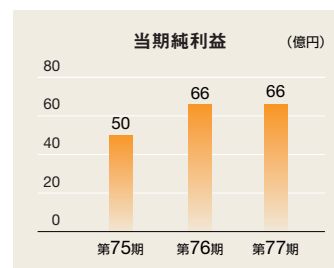
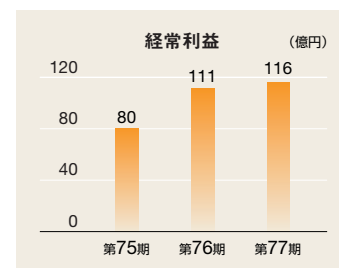
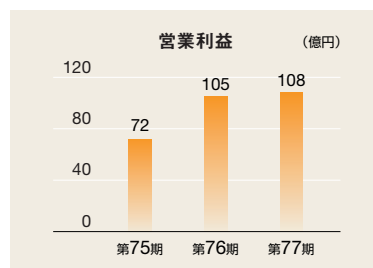
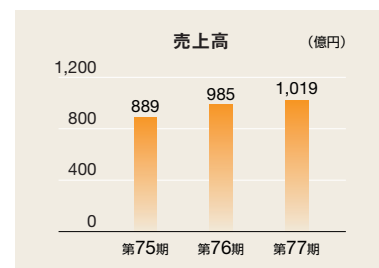
株主の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
第77期報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

第77期の経営成績

当期の売上高は、1,019億55百万円(前期比3.5%増)と4期連続の増収となり、当社グループとして初めて1千億円を超える過去最高の実績をあげることができました。また、利益面では、経常利益は116億77百万円(同4.7%増)、当期純利益は66億6千万円(同0.1%増)を計上し、いずれも5期連続の増益となりました。なお、当期の期末配当金につきましては、前期に実施いたしました記念配当3円を普通配当として継続し、1株当たり18円とさせていただきます。これにより、年間配当金は前期と比べ1株当たり3円増配の36円となります。

第77期の事業展開

半導体製造分野におきましては、最先端プロセスで需要が拡大しているエキシマレーザー用フォトレジストの拡販に努め着実な成果をあげたほか、液浸露光技術に対応する各種材料やプロセス技術の開発を加速させるなど微細加工技術における優位性を堅持すべく注力



してまいりました。また、フラットパネルディスプレイ製造分野におきましても、液晶パネル用ガラス基板の大型化に対応する最先端・高付加価値製品の拡充に努めたほか、相模事業所内において当分野に特化した研究開発棟の建設を進めたことに加え、国内外の生産拠点の整備も図ってまいりました。さらに、経営を取り巻く事業環境の変化に対応するため、内部統制システムの整備を進めるなど、経営全般にわたる諸施策を講じてまいりました。

今後の課題と戦略

急速な技術革新を続ける市場の高度な要求・要望に応えるため、より一層の技術開発力の強化が課題であると捉えております。このために、既存事業領域における新技術・新製品の研究開発に積極的に経営資源を投入すると同時に、さらなる微細加工技術の進化を図り、将来を展望した新規事業領域の創出にも努めてまいります。また、当社グループの原点である「モノづくり」に対する体制をより強固なものにし、顧客満足度の向上を目指すとともに、CSR(企業の社会的責任)を意識した経営を推進し、ステークホルダーの方々から高い信頼と満足寄せられるブランド力のある企業グループであり続けるよう取り組んでまいります。



取締役社長 中村洋一

表紙について

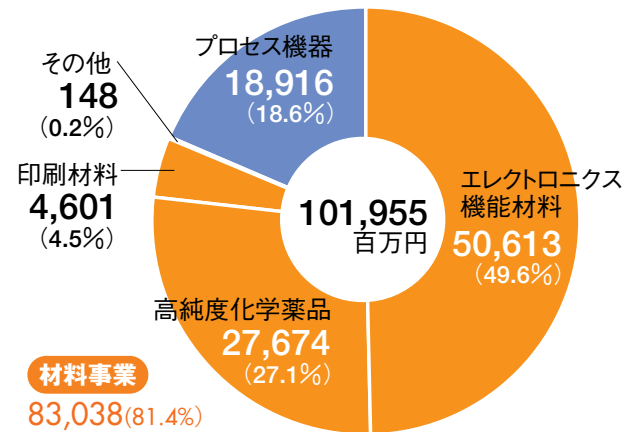
情報化社会を急速に進化させたのが、「微細加工技術」です。

携帯電話やパソコンのほか、多くのデジタル製品の中には目に見えないほどの小さな技術が詰まっています。この微細加工技術の進化によって、より小さく、より薄く、より軽く、そしてより多機能になるなど、私たちの身近なところで微細加工技術は暮らしを支えています。

contents

株主の皆様へ	1
事業別営業概況	3
中期計画の取り組み	5
TOPICS	7
特集	9
財務諸表	11
株式の概況/会社の概況	13

事業別営業概況



材料事業
83,038(81.4%)

装置事業
18,916(18.6%)

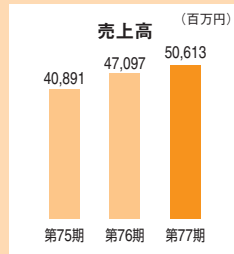
材料事業におきましては、半導体製造分野では、需要拡大を背景に、微細加工技術における優位性を堅持しつつ最先端材料を中心に拡販に努めました。また、フラットパネルディスプレイ製造分野では、国内外の生産拠点の整備を進め、生産能力の向上と製造コストの削減を図ってまいりましたが、残念ながら、液晶パネルの生産調整の動きが急速に広がり、売上は増加したものの計画を下回る実績となりました。一方、装置事業におきましては、液晶パネル用ガラス基板の大型化に対応するユーザーニーズを的確に捉え、最先端製品の拡充に努めてまいりました。

この結果、材料事業の売上高は、830億38百万円(前期比3.4%増)、装置事業の内部取引を除いた売上高は、189億16百万円(同4.1%増)となりました。

材料事業 エレクトロニクス機能材料部門



半導体用フォトレジスト

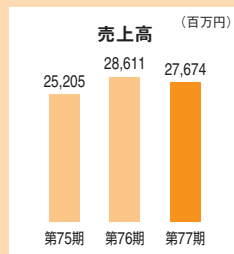


半導体用フォトレジスト*は、ユーザーニーズに対応した販売活動が奏功しエキシマレーザー用フォトレジスト*を中心に実績を伸ばしました。また、フラットパネルディスプレイ用フォトレジスト*は、液晶ディスプレイ用フォトレジストが高付加価値製品の販売拡大により前期を上回る実績をあげることができました。

材料事業 高純度化学薬品部門



フォトレジスト付属薬品

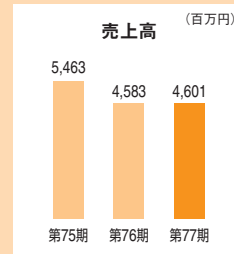


無機化学品・有機化学品は、国内需要を的確に捉え実績を伸ばすことができましたが、フォトレジスト付属薬品*につきましては、製品価格の下落やフラットパネルディスプレイ市場での生産調整の影響を受け売上は前期を下回りました。

材料事業 印刷材料部門



フレキソ印刷物

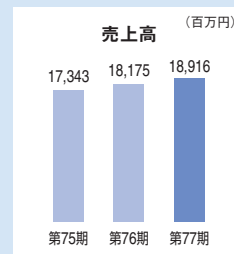


印刷用感光性樹脂版*につきましては、フレキソ印刷*向けが需要環境の変化等により厳しい展開を余儀なくされましたが、一般印刷*向けは海外市場での拡販努力が奏功し実績を伸ばすことができました。

装置事業 プロセス機器部門



第7.5世代基板対応コーター スピンドレス® [TR117000 Sシリーズ]



液晶パネル製造装置は、液晶パネルメーカーの設備投資抑制の影響から受注は前期を下回りましたが、出荷済み製品の検収促進に努めたことにより売上は前期を上回ることができました。また、半導体製造装置につきましては低調に推移いたしました。

用語解説(*マーク部分)

フォトレジスト

光に反応して化学的に作用・変化する樹脂で、感光性樹脂ともいわれています。半導体・フラットパネルディスプレイ・半導体パッケージ/実装・プリント配線板分野等の微細加工で必要不可欠な材料として広く用いられています。

エキシマレーザー用フォトレジスト

エキシマレーザーを露光光源とするフォトレジストです。エキシマレーザーとは希ガスやハロゲンなどの混合ガスを励起させて得られるレーザー光です。ArF(フッ化アルゴン)エキシマレーザーとKrF(フッ化クリプトン)エキシマレーザーに対応するフォトレジストを取り扱っております。

フラットパネルディスプレイ用フォトレジスト

液晶ディスプレイ用として、アレイ基板の電極形成用フォトレジストやカラーフィルター製造用フォトレジスト、また、プラズマディスプレイ用としては、背面板の隔壁形成用ドライフィルムや前面板の電極形成用ドライフィルム等がフラットパネルディスプレイ用フォトレジストです。

フォトレジスト付属薬品

ウェハ露光後に不要箇所を溶解する「現像液」、ウェハ等に付着した油分・薬液などを除去する「リンス」「シンナー」、不要となったフォトレジストを除去する「剥離液」等がフォトレジスト付属薬品です。

印刷用感光性樹脂版

フィルムや金属板上に感光性樹脂層を形成した印刷版材です。

フレキソ印刷

フレキソ印刷とは、活版印刷と同じく凸状の版で印刷する方法です。樹脂をやわらかくすることにより、段ボールへの印刷や包装フィルム等への印刷に使用されています。

一般印刷

フレキソ印刷と同様に凸状の版で印刷する方法です。主に飲料缶への印刷やシール/ラベルの印刷に使用されています。

中期計画第3次「tokチャレンジ21」の取り組み

当社グループは、業績面の向上だけを捉えるのではなく、CSRの推進、ブランド力の確立という要素も重視し、これらの要素を有機的に結合させ、企業価値の拡大を目指してまいります。



基本戦略

1. 微細加工技術の進化

- 成長事業領域への経営資源の集中
- 新事業領域の創出

2. グローバル市場でのTOKブランドの確立

- 半導体フォトレジスト事業を生かした既存の他分野への展開
- 顧客満足の徹底
- 海外拠点の充実

3. 経営体質の強化・企業風土改革

- CSR経営の推進
- 内部統制システムの構築
- ITシステムの有効活用

基本戦略の概要について

「微細加工技術の進化」では、積極的な設備投資と新事業領域の創出に注力

微細加工技術の進化のために、半導体製造分野では液浸プロセス用をはじめとする最先端装置や各種検査装置の導入を積極的に行い、また、フラットパネルディスプレイ製造分野についても相模事業所内において当分野に特化した研究開発棟への投資を進めております。

半導体製造分野で微細化を追求していく一方、5年、10年、さらには20年先を見据えて、新たな事業領域の創出に引き続き注力してまいります。

「グローバル市場でのTOKブランドの確立」では、信頼関係の作り上げが大切

ブランド力向上には、性能がユーザーの要望を満たしていることはもちろん、品質、サービス、コストなどあらゆる面で信頼を勝ち取る必要があります。この信頼関係を強化していくためにも、優れた技術・製品を提供していくよう努めてまいります。

「経営体質の強化」では、内部統制システムの整備に加え、CSRを意識した経営を推進

事業全般のリスク管理、業務の効率化の観点からも内部統制システムの整備を進め、多くのステークホルダーの方々から高い信頼を寄せられるよう取り組んでまいります。また、よい技術・製品を提供し、その最終製品が社会の進歩・発展に貢献することを念頭に入れたCSR経営の推進も図ってまいります。

TOPICS

「ノムラ資産管理フェア」に参加

——個人投資家の皆様へ当社をアピール——

昨年12月1日(金)、2日(土)に東京国際フォーラムにて開催された、個人投資家の皆様に向けたイベント「第9回ノムラ資産管理フェア」に出展しました。来場者が2日間で2万6千人を超える大盛況の中、多数の方々に当社のブースにも立ち寄っていただき、会社案内、環境・社会報告書などのパンフレットを手に多くのご質問をいただきました。またブース内には、当社製品を使用して集積回路を形成した300mmウェハを展示するなど、普段あまり目に触れることがない大型シリコンウェハを通じて最先端技術にも興味をもっていただきました。

今後もこのような機会を通し、個人投資家の皆様に直接お会いすることで、当社をご理解いただくよう努めるとともに、頂戴いたしました貴重なご意見をもとに、IR活動の向上に努めて参ります。



担当者から一言

当社をご理解いただくために、今後もこのような機会を通じてより多くの株主・投資家の皆様とコミュニケーションを深めてまいりたいと考えております。

広報部 宮地大樹



極端紫外線(EUV)リソグラフィ用低分子フォトレジストの開発

——ハーフピッチ(hp)32nm世代以降の量産に適用可能——

フォトレジスト壁面にできる凸凹(荒さ)をLER(Line-Edge Roughness)と呼び、この凸凹の大きさは、配線の断線、ショート等を引き起こし半導体デバイスの生産性に多大な影響を与えます。特に回路線幅がhp32ナノメートル(以下nm)(ナノは10億分の1)世代以降、さらにその先の世代では、LERの許容範囲はわずか1.3nmとなり、従来の高分子材料では分子サイズ自体がこの許容値を超えてしまいます。

そこで当社は、(株)日立製作所様との共同開発、また技術研究組合 超先端電子技術開発機構(ASET)様の協力を得て、EUVリソグラフィ用フォトレジストの基本材料として分子量1,000程度(従来は分子量約10,000程度)の新規低分子ポリフェノールを開発しました。この“均一で小さな分子”を採用し最適化したことにより、大きな課題とされていたLERの低減を可能にしたうえ、必要な高解像度と生産性に直結する高感度を達成することに成功いたしました。

本フォトレジスト材料により、2012年頃と予想され

るhp32nm世代以降のEUVリソグラフィに求められている超微細加工が可能となり、さらには、それ以降の世代の半導体デバイス量産化に向けて実現性を示すとともに、半導体デバイスの高性能化および低コスト化に道を拓く技術として期待しております。



低分子フォトレジストを用いEUV露光により得られた28nmパターン
(露光装置:HINA)
(NEDO委託研究としてASET EUVプロセス技術研究室にて評価しました)

担当者から一言

平成15年度から3年間のNEDO委託研究において、低分子フォトレジストの開発に携わり今回の成果を達成できました。今後も微細加工材料開発の発展に邁進したいと思います。

先端材料開発一部 塩野大寿



特集

「半導体」と「tok」

私たちの暮らしをより便利に、快適に、そして、豊かなものに…
そこで活用されているのが、
“**フォトリソグラフィ**”を使った微細加工技術です。

フォトリソグラフィとは、写真の原理と似た技術で、光を利用して極めて微細な加工を行う技術です。当社は、フォトリソグラフィ工程で使われているフォトレジスト(感光性樹脂)や高純度化学薬品といった材料と、塗布装置をはじめとする製造装置を提供しています。

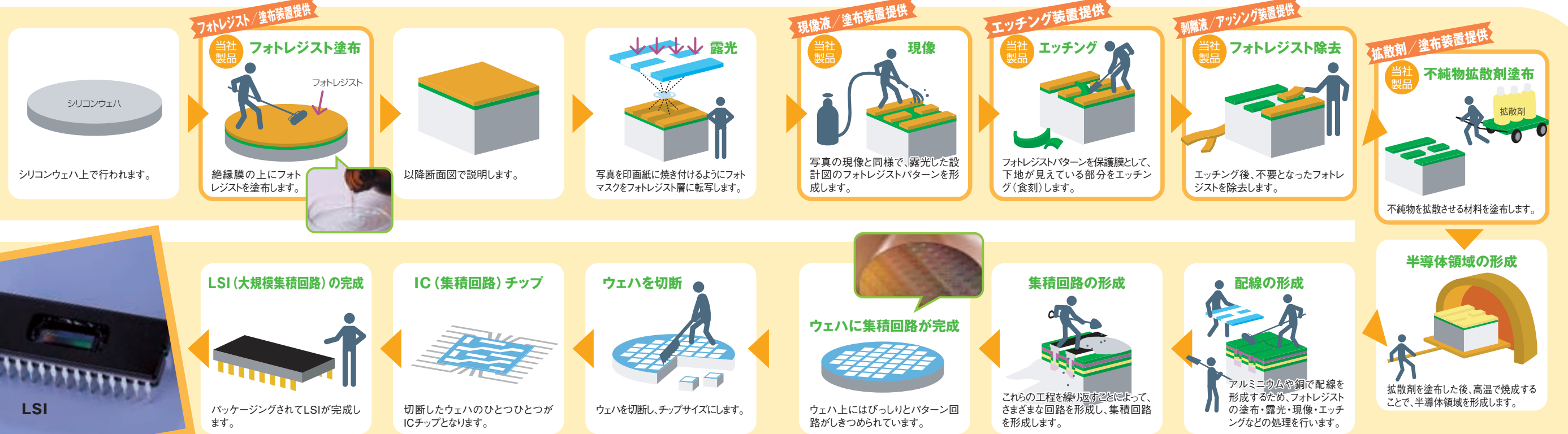
半導体フォトリソグラフィ工程は、シリコンウェハの上にフォトレジストパターンを形成し、現像・エッチングなどさまざまな加工を繰り返し行います。そして、ウェハに集積回路が

完成した後に、切断(ダイシング)・パッケージすることにより、IC(集積回路)やLSI(大規模集積回路)が完成します。

このICやLSIは、携帯電話やデジタルカメラをはじめ、薄型テレビといった家電製品から自動車にいたるまで、身近にあるさまざまな製品の中に組み込まれています。

あまり目に触れることのない微細加工技術ですが、当社は挑戦し続け、社会の進歩・発展に貢献してまいります。

フォトリソグラフィ工程概略



財務諸表

連結貸借対照表 (要旨)

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	(平成19年3月31日現在)	(平成18年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	100,147	106,266
固定資産	66,463	59,415
有形固定資産	45,976	42,652
無形固定資産	1,596	2,023
投資その他の資産	18,890	14,739
資産合計	166,610	165,681
負債の部		
流動負債	33,427	37,518
固定負債	2,108	2,222
負債合計	35,535	39,740
少数株主持分		
少数株主持分	—	2,025
資本の部		
資本金	—	14,640
資本剰余金	—	15,223
利益剰余金	—	91,529
その他有価証券評価差額金	—	3,660
為替換算調整勘定	—	445
自己株式	—	△1,583
資本合計	—	123,915
負債、少数株主持分及び資本合計	—	165,681
純資産の部		
株主資本	124,925	—
資本金	14,640	—
資本剰余金	15,226	—
利益剰余金	96,472	—
自己株式	△1,414	—
評価・換算差額等	3,899	—
少数株主持分	2,249	—
純資産合計	131,074	—
負債純資産合計	166,610	—

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

PICKUP

流動資産

長期性預金への預入れ等により現金及び預金が66億79百万円減少、装置事業の製品在庫の減少によりたな卸資産が15億7百万円減少しました。

PICKUP

流動負債

支払債務の減少等により支払手形及び買掛金が14億43百万円減少、前期末の法人税の支払い等により未払法人税等が21億22百万円減少しました。

連結損益計算書 (要旨)

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)	(平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)
売上高	101,955	98,514
売上原価	69,248	65,684
売上総利益	32,706	32,829
販売費及び一般管理費	21,822	22,284
営業利益	10,884	10,544
営業外収益	1,398	916
営業外費用	604	304
経常利益	11,677	11,156
特別利益	62	403
特別損失	620	236
税金等調整前当期純利益	11,119	11,324
法人税、住民税及び事業税	3,921	4,643
法人税等調整額	230	△444
少数株主利益	307	467
当期純利益	6,660	6,656

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)	(平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,744	8,008
投資活動によるキャッシュ・フロー	△15,822	△13,805
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,469	△595
現金及び現金同等物に係る換算差額	295	460
現金及び現金同等物の減少額	△8,250	△5,931
現金及び現金同等物の期首残高	40,820	46,752
現金及び現金同等物の期末残高	32,569	40,820

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書 (平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
平成18年3月31日残高	14,640	15,223	91,529	△1,583	119,809	3,660	445	4,105	2,025	125,940
連結会計年度中の変動額	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
剰余金の配当(※)	—	—	△841	—	△841	—	—	—	—	△841
剰余金の配当	—	—	△841	—	△841	—	—	—	—	△841
役員賞与(※)	—	—	△33	—	△33	—	—	—	—	△33
当期純利益	—	—	6,660	—	6,660	—	—	—	—	6,660
自己株式の取得	—	—	—	△4	△4	—	—	—	—	△4
自己株式の処分	—	—	—	173	176	—	—	—	—	176
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△555	349	△206	224	18
連結会計年度中の変動額合計	—	3	4,943	168	5,115	△555	349	△206	224	5,134
平成19年3月31日残高	14,640	15,226	96,472	△1,414	124,925	3,104	794	3,899	2,249	131,074

(注)1.剰余金の配当(※)、役員賞与(※)は、平成18年6月開催の定時株主総会における利益処分項目であります。
2.記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

単体貸借対照表 (要旨)

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	(平成19年3月31日現在)	(平成18年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	86,797	93,288
固定資産	66,730	60,453
有形固定資産	41,388	38,501
無形固定資産	1,553	1,938
投資その他の資産	23,788	20,013
資産合計	153,527	153,741
負債の部		
流動負債	30,177	34,477
固定負債	883	1,401
負債合計	31,060	35,879
資本の部		
資本金	—	14,640
資本剰余金	—	15,223
利益剰余金	—	85,922
その他有価証券評価差額金	—	3,660
自己株式	—	△1,583
資本合計	—	117,862
負債・資本合計	—	153,741
純資産の部		
株主資本	119,362	—
資本金	14,640	—
資本剰余金	15,226	—
利益剰余金	90,909	—
自己株式	△1,414	—
評価・換算差額等	3,104	—
純資産合計	122,466	—
負債純資産合計	153,527	—

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

単体損益計算書 (要旨)

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)	(平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)
売上高	85,714	82,883
売上原価	58,100	55,141
売上総利益	27,613	27,742
販売費及び一般管理費	19,653	20,082
営業利益	7,960	7,659
営業外収益	2,648	1,798
営業外費用	561	333
経常利益	10,047	9,123
特別利益	429	414
特別損失	385	213
税引前当期純利益	10,091	9,324
法人税、住民税及び事業税	2,865	3,709
法人税等調整額	521	△621
当期純利益	6,704	6,237
前期繰越利益	—	9,847
自己株式消却額	—	5,508
中間配当額	—	696
当期未処分利益	—	9,880

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

株式の概況 / 会社の概況 (平成19年3月31日現在)

株式の状況

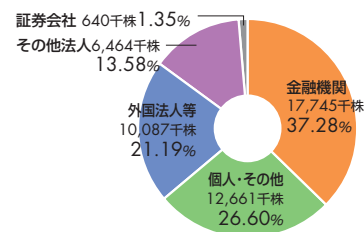
発行可能株式総数 197,000,000株
 発行済株式の総数 47,600,000株 (自己株式768,362株を含む)
 株主数 11,230名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,630	7.75
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,631	5.61
明治安田生命保険相互会社	2,148	4.58
本多良子	1,494	3.19
株式会社横浜銀行	1,283	2.74
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,207	2.57
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー505019	1,204	2.57
財団法人東京応化科学技術振興財団	984	2.10
三菱UFJ信託銀行株式会社	953	2.03
伊藤毅雄	900	1.92

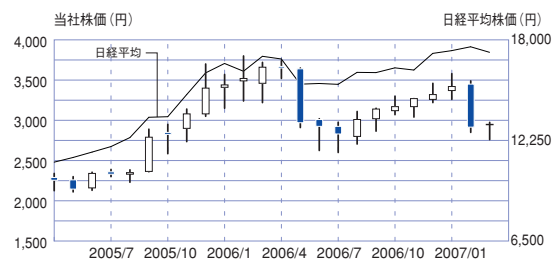
(注) 出資比率は、発行済株式の総数から自己株式を除いた株式数(46,831,638株)を基準に算出するとともに、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

所有者別株式分布状況



(注) 1. 自己株式768千株は、「個人・その他」に含まれております。
 2. 株式数は、千株未満の端数を切り捨てて表示しております。

株価の推移



会社概要

社名 東京応化工業株式会社
 TOKYO OHKA KOGYO CO., LTD.
 設立年月日 昭和15年10月25日
 資本金 14,640,448,000円
 従業員数 1,307名
 (出向者84名、嘱託者134名を除く)
 本社 〒211-0012
 川崎市中原区中丸子150番地
 電話 044(435)3000 (代表)

役員 (平成19年6月28日現在)

取締役および監査役

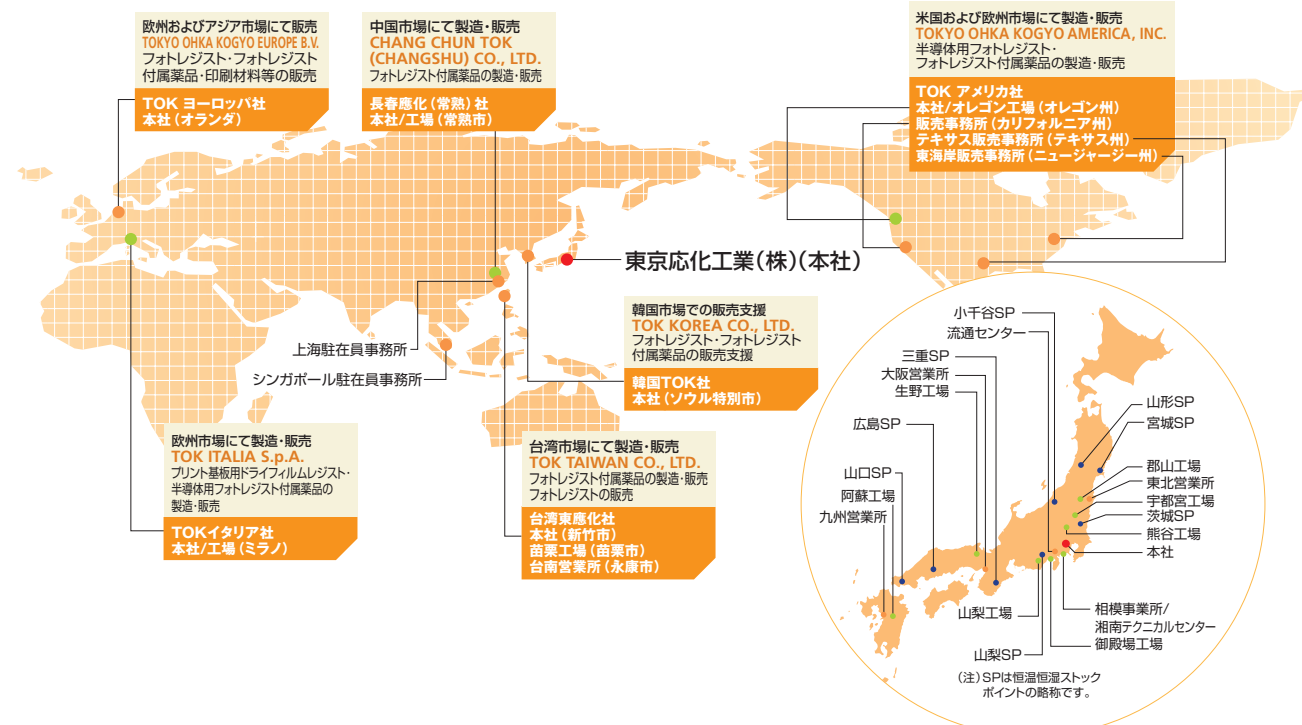
代表取締役 中村 洋一
 取締役社長 執行役員社長
 代表取締役 小峰 孝
 専務執行役員
 代表取締役 開発 宏一
 専務執行役員
 取締役 逸見 至保
 常務執行役員
 取締役 任田 博行
 執行役員
 取締役 岩崎 光文
 執行役員
 ※1 取締役 牧野 二郎
 常勤監査役
 ※2 監査役 檜垣 不二夫
 ※2 監査役 羽山 幸男

執行役員

常務執行役員 堀越 昭則
 執行役員 古谷 仁
 執行役員 小原 秀克
 執行役員 大田 勝行
 執行役員 浅羽 洋
 執行役員 田澤 賢二
 執行役員 駒野 博司

(注) ※1. 取締役 牧野二郎氏は、社外取締役にあります。
 ※2. 監査役 檜垣不二夫および監査役 羽山幸男の両氏は、社外監査役であります。

ネットワーク



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで (連絡先) 〒137-8081
 東京都区江東区東砂七丁目10番11号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)
 定時株主総会 6月
 株主確定基準日
 定時株主総会 3月31日
 期末配当金
 中間配当金 9月30日
 (中間配当を実施する場合)
 その他 そのほか必要ある場合は、取締役会の決議により、あらかじめ公告いたします。
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 (連絡先) 〒137-8081
 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)
 同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
 野村證券株式会社 全国本支店
 単元株式数 100株
 公告の方法 電子公告により行います。
 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
 公告掲載URL
http://www.tok.co.jp/pn/public_notice.html